

しろあとの学び舎を支えて

～PTAによる環境整備と教育活動サポート～

新城小学校父母と教師の会（PTA）

新城市立新城小学校は、新城市の中心部に位置する、歴史情緒あふれる学校です。

「新城」という地名は、有名な長篠・設楽原の戦いの後、徳川家康に命じられた城主奥平昌信が現在の校地に「新しい城（新城城）」を築いたことに由来します。来年度は、この地名が誕生してから450周年という記念すべき年を迎えます。

その歴史を物語るように、校地には当時の土塁の跡が残されています。昭和11年（1936年）に竣工された正門や楼門も、城跡の歴史的な風格を際立たせています。

また、昭和55年（1980年）に現在の南校舎が建設された際、旧木造校舎の一部が「しろあと資料館」として敷地内に移転されました。これは、愛知県内に現存する木造学校建築の中でも貴重な文化財建造物です。

さらに敷地内には「赤道（あかみち）」と呼ばれる公道が通り、地域の方々も散策に利用されるなど、子どもたちだけでなく地域にも開かれた学校となっています。



○新城小学校父母と教師の会（PTA）による学校支援活動

私たち新城小学校父母と教師の会（PTA）は、学校支援として、主に二つの活動に取り組んでいます。一つは学校環境を整える「奉仕活動」、もう一つは教育活動を支える「しろあとボランティア」への参加です。

1 奉仕活動：敷地の環境整備

新城小学校は新城城の跡地にあり、その広い敷地の維持管理は大きな課題です。特に夏場は雑草の勢いが強く、10月の「共育（ともい）く）運動会」で使う大切な運動場も、草が生い茂りがちになります。ほかにも、校舎の老朽化への対応や、木造校舎を移設した「しろあと資料館」の維持管理など、教職員だけでは手が回りにくい部分があります。

そのため、私たちPTAは学校支援の一環として、毎年、親子参加による草取り奉仕活動を行っています。

2 しろあとボランティア：教育活動の支援

もう一つの柱である「しろあとボランティア」は、「読み聞かせ」や「授業支援」など、複数の支援活動の総称です。これは新城小学校独自の組織で、多くの地域の方々も参加しています。

PTAもこの活動に積極的に関わっており、総会などで会長から会員（保護者）へ参加を呼びかけ、多くの方が活動に加わっています。

今回は、これらの活動の様子や、「しろあとボランティア」に参加されている会員へのインタビューを含めご紹介します。

1 「奉仕作業」

ここでは令和7年度に行われた「草取り」と「竹取り」の活動の様子をお伝えします。

(1)「PTA奉仕作業（草取り）」

9月上旬の土曜日、PTA奉仕作業として運動場の草刈りを呼びかけたところ、子どもと保護者、教員など約200人もの方が集まってくださいました。

作業が始まると、運動場では参加者全員が草取り道具を片手に、大きく伸びた草から生えたばかりの小さな草まで、丁寧に抜き取りました。また、草刈り機を持参くださった保護者の方々は中庭や校舎裏などに分かれ、一斉に草を刈り進めてくださいました。

作業は1時間半ほどでしたが、集まった草の量は、なんと軽トラック8台分にも達しました。おかげさまで、あれほど生い茂っていた運動場も見違えるほどきれいになり、10月の「共育運動会」も万全の状態を迎えられます。



(2) 「PTA奉仕作業（竹取り）」

10月の新城小学校の共育運動会で、一番の盛り上がりを見せるのが「鈴割・ぼうしとり」です。この花形種目に欠かせないのが、鈴を吊るすための丈夫な「竹」です。

幸い学校の周りには立派な竹林がありますが、あまりに立派すぎる竹は切り出すだけでも大変な作業です。そこで運動会を1週間後に控えた土曜日の早朝、地域のお父さんたち7名が「竹取り」の有志として集まってくださいました。

「子どもたちが思い切り競技できるように」と、まっすぐで丈夫な竹を厳選する姿は真剣そのもの。この地域ならではの手筒花火に携わっている方も多いからか、竹を選ぶ基準も自然と高くなっているようでした。

しかし、一度竹が決まれば、作業は圧巻でした。選んだ竹をあっという間に切り出し、運び出す姿は「頼もしい」の一言に尽きます。お父さんたちのおかげで、本番の鈴割も盛大に行うことができました。



2 「しろあとボランティア」

このページでは、新城小学校「しろあとボランティア」のいくつかの活動を紹介します。参加される皆さんは、学校の子どもの笑顔を見たくて一生懸命活動をされています。

(1) 「しろあとボランティア（ほんよみたい）」

新城小学校の学校支援は、「しろあとボランティア」という組織が中心となって担っています。このボランティアには保護者だけでなく地域の方も参加しており、先の「授業支援」や「登下校支援」など、活動は多岐にわたります。

その中でも特に活発な活動の一つが、読み聞かせグループ「ほんよみたい」です。「ほんよみたい」の皆さんは、毎週水曜日の朝の時間を使い、各学級に出かけ、本の読み聞かせを行っています。地域の方とともに多くの保護者の方がこの活動に参加し、子どもたちに本の世界の楽しさや魅力を届けてくれています。

毎年12月にはサンタやトナカイの衣装を着て全校向けの読み聞かせイベントも行っています。

朝のちょっとした時間ですが、子どもたちにとっては1日の学校が楽しく始められる大切な時間となっています。



(2) 「しろあとボランティア(授業支援)」

家庭科の調理実習やマシンを使った実習は、高学年の子どもたちにとっても、普段使い慣れない道具を扱うため戸惑いやすい時間です。包丁やガスコンロの安全な使い方、あるいはマシンの複雑な操作など、クラス全体への説明だけでは理解が難しく、一人ひとりへのサポートが特に必要となります。

そんなとき、数名のお母さんたちが授業支援として教室に入り、子どもたちを助けてくださいます。困っている子どものそばに寄り添い、調理器具やマシンの使い方を、その子のペースに合わせて丁寧に対応しています。

また、外部講師による理科の実験講座では数名の保護者の方が有志の助手として参加し、お手伝いしていただきました。

これらのサポートのおかげで、子どもたちは安全に、そして安心して実習に取り組むことができます。



【インタビュー】しんあとボランティア、参加してみませんか？

～現役メンバーが語る活動の魅力とホンネ～

小学校で読み聞かせなどの活動をされている「しろあとボランティア（ほんよみたい）」の皆さんにお集まりいただき、活動のきっかけややりがいについてお話を伺いました。

Q1 ボランティアに参加した「きっかけ」は何ですか？

皆さん、さまざまなきっかけで活動を始められています。

1 学校や子どもたちの「普段の様子」が見てみたかった

- ・「もともと、この学校の卒業生ではなかったので、学校の中の雰囲気を知りたいという気持ちがありました。ボランティアは、学校の中に入れる良い口実になりましたね。自分の子どもがどんな先生に、どんな教室で教わっているのか、自分の目で見てみたかったのが一番の理由です。」
- ・「私も同じで、普段の学校での子どもの様子をちょっと見てみたいという気持ちがありました。自分の子どもだけでなく、同級生の子たちがどんな風に過ごしているのかを知れるのは興味深いです。」
- ・「『ボランティア』と構えるのではなく、純粋に子どもたちに会いたい、ただそれだけでした。自分の母校に自分の子どもが通うのが感慨深く、自然な流れで関わり始めました。」

2 時間や得意なことを活かしたかった

- ・「もともとボランティア活動が好きで、ちょうど仕事をしていない時期だったので、『お手伝い募集』の案内を見て参加を決めました。朝の10分程度という短い時間だったので、これならできるかな、と。」
- ・「私は本が大好きで、保育士という仕事柄、子どもと接することも好きでした。知人から読み聞かせボランティアの話を聞いて、『ぜひやってみたい!』と思ったのがきっかけです。知り合いがいたので、とても参加しやすかったですね。」
- ・「母親が民生委員など、地域で熱心に活動している姿を見ていた影響も大きいかもしれません。」

Q2 活動の「やりがい」や「メリット」は何ですか？

活動を通して、子どものためだけではない、自分自身にとっての多くのメリットを感じているようです。

◆ 地域の子どもたちとの繋がり

- ・「自分の子どもの学年以外にも行くので、たくさんの子どもたちが顔を覚えてくれます。学校の外で会ったときも『本読みのお姉さんだ!』と声をかけてくれるのが嬉しいです。」
- ・「顔見知りになることで、下校中に『早く帰りなよ』と気軽に声をかけられるようになります。地域の目が増えるという意味で、安全面でも良いことだと感じています。」

◆ 保護者同士・先生との繋がり

- ・「週に一度、ここで他の学年のお母さんたちや先生方と話すのが、貴重な情報交換の場であり、ストレス発散にもなっています。」
- ・「先生と気軽に話せるようになるのは大きなメリットです。また、子どもの友達の顔もわかるので、『〇〇くんと話したよ』など、子どもとの会話が増えるきっかけにもなります。」

◆ 子どもたちの嬉しい反応

- ・「子どもたちが読み聞かせの日を楽しみにしてくれているのが伝わってくると、本当に嬉しいです。『今日は誰が担当?』『僕たちのクラスは誰が来る?』とワクワクしてくれている姿や、私たちが来ると急いで教室に戻る姿を見ると、『やってよかったな』と心から思います。」

「奉仕活動」も「しろあとボランティア」も、子どもたちが安全で豊かな学校生活を送るために欠かせない取り組みです。私たち新城小学校父母と教師の会（PTA）は、これからも教職員の皆様、地域の皆様と連携し、子どもたちの学びの環境を支える活動を続けてまいります。

